

基礎自治体におけるスタートアップ支援事例

基礎自治体の施策は、地理的特性や産業構造に基づき、国や県の画一的な支援では届かないオリジナリティで設計されている事例を収集した。以下に、新宿区への応用可能性を含めた事例を詳述する。

1. 墨田区：墨田区産業共創施設 SUMIDA INNOVATION CORE

墨田区の基盤産業である「町工場」と、ハードウェア系スタートアップをマッチングさせる施策である。

項目	内容
自治体名・施策名	墨田区産業共創施設 SUMIDA INNOVATION CORE
地域特性	「歩いていける距離に職人がいる」という物理的・心理的距離の近さが強み。多種多様な加工技術を持つ中小企業が密集する「顔の見えるコミュニティ」が形成されている。
地域リソース	熟練工の技術、試作から量産まで対応可能な製造ライン、そして区が整備した「SUMIDA INNOVATION CORE（墨田イノベーション コア）」という産業共創施設を活用。
新宿区への応用可能性（案）	早稲田・神楽坂エリアに集積する「印刷・製本業」や、神田川・妙正寺川沿いに集積する「染色産業」をリソースとし、クリエイターや出版テック系スタートアップとのマッチングを図る拠点づくりに応用
参照 URL	https://sic-sumida.net/

2. 豊橋市 : TOYOHASHI AGRI MEETUP

全国有数の農業産出額を誇る特性を活かし、農業×テクノロジー（アグリテック）に特化した支援を行っている。

項目	内容
自治体名・施策名	愛知県豊橋市 : TOYOHASHI AGRI MEETUP
地域特性	全国トップクラスの農業産出額を誇り、多様な作物の栽培実績がある「農業生産基盤」そのものを強みとしている。
地域リソース	実際の農業現場や、新しい技術の導入に意欲的な農家ネットワーク、さらには市が管理する農業用水などの公共インフラを実証実験の場として提供。
新宿区への応用可能性（案）	「農業」を「サービス・観光業」に置き換え、新宿の強みであるサービス業に特化したスタートアップを垂直立ち上げる支援プログラムへの転換が有効
参照 URL	https://toyohashi-agri-meetup.jp/

3. 横浜市：テックハブ横浜

みなとみらい 21 地区が持つ「オープンな港町」と「研究開発の街」という二面性を最大限に活用している。

項目	内容
自治体名・施策名	神奈川県横浜市：テックハブ横浜
地域特性	みなとみらい 21 地区に密集するグローバル企業の R&D（研究開発）拠点が最大の強み。高度な技術者や研究者が日常的に交流する「知の密度」が極めて高く、市も「モビリティ」を重点分野に設定している。開港以来の「外に開かれた」文化も、海外スタートアップを受け入れる土壌となっている。
地域リソース	みなとみらいの高度なインフラに加え、ベルリンの「The Drivery（ザ ドライブリー）」（※）といった海外支援機関との提携により、横浜にしながら世界基準のメンタリングを受けられる体制を構築。 ※モビリティ分野に特化したイノベーション支援組織。ドイツ内外からスタートアップ、技術者、投資家等を集積し、モビリティ分野の新たなビジネスの創出を支援している。
新宿区への応用可能性（案）	西新宿に集積する大企業の本社や、区内の大学群（主に工学院大、東京医大等）を巻き込むことで、「都市型 R&D 拠点」としての機能を強化
参照 URL	https://techhub-yokohama.com/

4. 品川区：五反田バレー（地理的ブランドの公認と支援）

五反田エリアに集積する IT スタートアップを「五反田バレー」としてブランド化し、区が支援・連携を図っている。

項目	内容
自治体名・施策名	東京都品川区：五反田バレー支援施策
地域特性	「五反田」という特定のエリアに、手頃な賃料のオフィスを求めて IT 企業が自然発生的に集まったという歴史的経緯（地理的ブランド）を活用
地域リソース	民間企業が主体となった「一般社団法人五反田バレー」と連携し、区の産業支援施設を拠点として提供している。行政主導ではなく、もともとあった民間の勢いに区があとから乗る形をとっている。
新宿区への応用可能性（案）	西新宿のスマートシティ構想や、新宿三丁目の文化産業集積をブランド化し、エリアマネジメントと連動したブランド戦略への応用
参照 URL	https://gotanda-valley.com/

5. 仙台市：SENDAI X-TECH Accelerator（地場産業との新陳代謝）

仙台市は、楽天イーグルスや地元有力企業を「パートナー」として巻き込み、IT 技術を活用した新事業創出を目指している。

項目	内容
自治体名・ 施策名	宮城県仙台市：SENDAI X-TECH Accelerator
地域特性	東北地方の経済・行政の中心地（支店経済都市）であり、プロスポーツチームや大手企業の支店、歴史ある地場産業が高度に集積している。単なる IT 振興ではなく、既存の産業基盤に最新技術を掛け合わせる「X-TECH（クロステック）」を推進している。
地域リソース	東北楽天ゴールデンイーグルス（プロ野球）やベガルタ仙台（Jリーグ）といったプロスポーツチームの保有資産を実証フィールドとして開放。 また、東北大学の高度な知見や、地元有力企業のネットワークをパートナーとして巻き込んでいる。
新宿区への 応用可能性 （案）	クリアソン新宿、区内大学、百貨店、あるいは歌舞伎町のエンタメ産業をパートナーにした、都心の高度商業地ならではのマッチングを検討。
参照 URL	https://eiicon.net/about/sendai-x-tech2019/

6. 渋谷区：Shibuya Startup Support（グローバル・ゲートウェイ機能）

東京都の施策よりも「英語圏の起業家」への直接サポートと「区道・公園の実験場化」を強調している。

項目	内容
自治体名・施策名	東京都渋谷区：Shibuya Startup Support
地域特性	「若者の街」としての世界的な知名度と、流行の発信地としての特性を最大限に利用
地域リソース	「スタートアップビザ」の発行権限や、区長直轄の推進体制、さらには区道や公園などの公共空間を実験場として開放する柔軟な姿勢を持っている。
新宿区への応用可能性（案）	神楽坂のフランス人コミュニティや大久保のコリアンタウンなど、新宿区の外国人住民比率の高さを活かした多文化コミュニティに特化した誘致戦略。
参照 URL	https://shibuya-startup-support.jp/

7. 浜松市：実証実験サポート事業

浜松市は、広大な森林面積と外国人住民の多さを「課題」ではなく「検証フィールド」として開放している

項目	内容
自治体名・施策名	静岡県浜松市：浜松市実証実験サポート事業
地域特性	都市、農村、山村、海がすべて揃う「国土の縮図」とも言える多層的な環境を、そのまま検証フィールドとして定義
地域リソース	広大な市有林や、多言語社会の実情、さらにスズキやヤマハといった大手製造業のサプライチェーンを活用
新宿区への応用可能性（案）	新宿の「高密度・多混雑」な環境を、ラストワンマイル配送や警備ロボットの過酷な実験場として提供できないか
参照 URL	https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/desupport/

